

子宮頸がんウイルスが心臓血管病にも関連する可能性

ヒトパピローマウイルスは、子宮頸がんの原因となることが知られているが、このウイルス感染が心臓血管病の直接的な原因となるのかについては不明である。本研究では、高リスク型のヒトパピローマウイルス感染と心臓血管病の発症との関連について検討した。

試験開始時に心臓血管病の既往がない 30 歳以上の女性 63,411 例を対象にコホート研究を実施し、2011～2016 年まで追跡した。被検者のうち 7.6%が高リスク型ヒトパピローマウイルスに感染していた。追跡期間中に 1,122 例が心臓血管病を発症した。高リスク型ヒトパピローマウイルスの感染と心臓血管病の発症には有意な関連がみられ、交絡因子で補正後も有意な関連がみられ、高リスクヒトパピローマウイルスに感染した女性はそうでない女性と比べ、心臓血管病リスクが 1.25 倍と高かった。この関連は、肥満やメタボリックシンドロームの女性でより強かった。すなわち、肥満の女性では、高リスク型ヒトパピローマウイルスに感染している女性は、感染していない女性と比べて心臓血管病のリスクが 1.73 倍となった。同様に、メタボリックシンドロームの女性では、そうでない女性と比べて 1.99 倍となった。

したがって、高リスク型のヒトパピローマウイルスの感染が、心臓血管病の発症に関連することが示され、その関連は肥満やメタボリックシンドロームの女性でとくに強いことが明らかとなった。

出典: Circulation Research. 2019 Mar; 124(5): 747-756.